

「和漢薬の学理の追究」を目的に 1974 年から富山大学に設置された和漢薬研究所は、2005 年 10 月 1 日の富山県内国立 3 大学の統合を機に、医学領域まで和漢薬研究を推し進めるために和漢医薬学総合研究所と改名し、「先端科学技術を駆使することにより伝統医学や伝統薬物を科学的に研究し、以て東洋医薬学と西洋医薬学との融合をはかり、新しい医薬学体系の構築と自然環境の保全を含めた全人的医療の確立に貢献する」ことを使命としました。この使命を達成するため、本研究所は、1) 天然薬物資源の確保と保全、2) 和漢医薬学の基礎研究の推進と東西医薬学の融合、3) 漢方医学における診断治療体系の客観化と漢方医療従事者の育成、4) 伝統医薬学研究の中核的情報発信拠点の形成、の重点課題を設定し、研究所内の横断的連携、国内及び国際的共同研究、さらには全国共同利用・共同研究拠点の活動を通じて異分野融合研究を推進して参りました。当研究所の研究成果も含め、和漢医薬学領域の研究者の絶え間ない和漢薬・漢方薬の基礎研究及び臨床研究の知見の集積、並びに産業界の努力により、医療用漢方製剤 148 処方中 85 処方が 70 の診療ガイドラインに掲載されるようになり、医師の約 90%が漢方薬による治療を行った経験があると答える時代になりました。

超高齢社会を迎えた我が国では、国民健康づくり運動として「健康寿命の延伸」、「生活習慣病の発症・重症化の予防」などの施策が打ち出され、疾患治療のみならず保健医療の重要性が言われています。このような時代の要請に対して、高齢者医療や先制医療などに強みを有する漢方薬や和漢薬はますますその必要性を増しており、疾患予防や治療に対する有効性の科学的証明並びに作用機序の解明が求められています。さらに、近年、術後イレウスやがんの支持療法で漢方薬が応用されているように、漢方薬の適応範囲を広げる効能リポジショニングや、新たな植物性医薬品等の開発の道も開かれています。

健康長寿社会の形成を和漢薬・漢方薬の応用から実現させるために、和漢医薬学総合研究所は基礎研究の成果を臨床研究に繋げることを目的にした組織改革を行っています。また、新たな重点課題を設定し、研究所員が協力して目的達成に注力することになりました。平成 30 年度の活動報告であるこの研究所年報には重点課題設定に向けた基盤となる成果も含まれています。

新組織になりましたも、引き続き、皆様方のご支援ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

平成 31 年 4 月 1 日

和漢医薬学総合研究所 所長 小松かつ子